

宗岡中だより



11月号 令和2年11月2日(月)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「秋晴れや 富士山麓の 見える橋」

校長 佐藤哲浩

昨年の同時期は、台風19号の上陸により関東地方に甚大な被害をもたらし、復旧作業に追われていました。それに比べ今年の10月は2つの台風が接近してきたものの、上陸までには至らず、長雨程度で穏やかな10月だったと思います。

私事になりますが、週末に一学期と同様に一人強歩会を行っています。秋晴れの先週末は、自宅から黒目川を下り、田島団地を通り抜ける。秋風を受けながら幸魂大橋を渡り、戸田の道満パークへ、ヤクルトの2軍練習場を眼下に見ながら北上する。秋ヶ瀬橋を渡り、中宗岡を通り抜け志木駅へ、そして自宅へと。幸魂大橋と秋ヶ瀬橋の上からは、夕日に照らされた富士山のシルエットが、山麓までくっきりと見え本当に綺麗な夕焼けでした。



話は変わって、本日の大手朝刊の一面に、来春から「首都圏JR17線、終電繰り上げ」という記事が掲載されていました。このニュースを目にした私は、学生時代に土曜日に深夜まで映画を観て終電に乗り損ね、家まで延々歩いたことや、サークル主催の深夜貫徹、山手線一周強歩会に参加したことを懐かしく思い出しました。JRが終電の繰り上げ、始発の繰り下げを実施する背景には、新型コロナウイルスの影響で深夜の乗客が減少したことに加え、深夜から早朝に及ぶ線路の保守作業に充てる時間を確保し、作業の効率化と働き方改革を進める狙いがあるとしています。特に保守作業の現場の人手不足は深刻であり、求人応募は少ないらしい。夜間作業が多く休みが不規則で土日勤務もある。採用しても「友人との付き合いができない」ということで辞めてしまう若者が多いらしい。

社会の変化に伴い、自治体や企業が新しい施策を打ち出すと、どんなことでも必ず賛否両論あり、利益が増加する企業と減少する企業が出てきます。深夜まで営業している飲食業や娯楽業にとっては、新型コロナウイルスによる影響で収益が減少している上に二重苦になる一方、タクシーなどの運送業や終電を乗り損ねた人のためのホテル業などは、収益が戻ると予想しているようです。

私自身は、新型コロナウイルスの感染拡大が収束して、徐々に乗客が戻っても前の水準までには戻らないと思っています。なぜならテレワークやオンライン会議等が企業に定着しつつあるからです。また少子高齢化により一層向かおうとしている現代社会において、24時間営業のコンビニが減少していることと同様に、終電の繰り上げによって社会が変わるのではなく、社会変化にJRのダイヤの見直しが行われ、生活スタイルが変化適応していくことは、とても良いことではないかと考えています。